

# 酒々井町郷土研究会々報

## 第34号

昭和59年10月5日

発行

酒々井町郷土研究会

### 猿楽場に就いて

沖田 善三郎

本佐倉に猿楽場(さかづぼ)という小字名がある。ここが果して猿楽という古い芸能とかかわりを示す地名であるのか、確かにはわからないが、亡くなった地元の川島先生が

妙胤寺裏の山林中に、土手をめぐらしその外郭を空堀で囲った所があり猿楽との関係について調べられたことがあったが、猿楽とは関係のないもののように、近くに妙胤社もあることから千葉氏一族の館跡と思われ

る。千葉佐考記に二十七代千葉親胤は、若年たりと雖も勇氣人を超えたり、然れども亦其心驕りて国政をなすに往々私あり、故に氏族諸臣之を疎んじ、胤富を以て家督を継がしめんと

欲して 弘治三年(一五五七)八月七日、佐倉城中に於て猿楽を催し、親胤をして之を見せしむ。時に、親胤其危機を察し知りて、秘れて妙胤の社内に入るを見え、家臣小野某追懸け渉十兵衛といふ者に親胤を弑せしむとあり猿楽の宴にかこつけて暗殺されている。

連歌師宗長が永正六年(一五〇九)小弓の原胤隆の館で延年の猿楽を見物したことを記してをり、親胤の頃より五十年程前のことになるとは、所々で猿楽が行はれていたことがわかる。

親胤の重臣中に原大蔵丞胤安がをり、臼井城主、小弓城主、小西城主、弥富城主など皆同族で、原氏の勢力は主家としてのくものであったという。

胤安は佐倉に居住して、いと見えて、その子胤長や大蔵丞母の名で伊勢の御師竟大夫に送って祈禱依頼の書状は皆下総作

倉よりとされている。又胤安の祖母妙孝禪定尼が佛具を文珠寺に寄贈し再興を計っていることが佐倉風土記に見える。

若し妙胤寺裏の館跡を胤安の館跡とする、親胤が討たれて猿楽を見ていたのはその館であったということになるかも知れない。何故なら佐倉風土記では親胤が逃げ出して隠れた処が大蛇の社で、これを探して討つたのは原信濃であるという。

千葉佐考記では妙胤社に逃がれたとあるが、妙胤社は根古谷の外に妙胤寺の裏館跡の近くにあり、この館からならこの妙胤社でも大蛇の社でも逃げ出して隠れるには適当な場所であったように思われるからである。とにかく猿楽場という地名は酒々井町の中世をいろいろと相像させる地名に思へるのですがどうでしょう。

#### 注

猿楽(申楽)散楽の転訛といふ。平安時の芸能。滑稽物真似や言葉芸などが中心で相撲御覧(奈良平安時代毎年七月天皇が宮中で諸国から相撲人を召し、相撲を御覧になり群臣に

宴を給う儀式)の時、内侍所、神楽の夜(宮中の盂明殿の別名神鏡を安置し内侍女官が之を守護した)の内侍所といった。毎年十二月吉日を選んでその庭上で神楽が催された。などに演じた。後鎌倉時代に入って演劇代し、能狂言となる。

#### 散楽

中国古来の芸能の一つ。古くは雅楽以外民間の舞楽の総称。唐代転じて軽業奇術滑稽物真似に音楽を伴奏したものという。

奈良時代、わが国に輸入され、日楽その他に伝存。

#### 田楽

日本の芸能の一つ。平安時代から行われた。もと田植等の農耕儀礼に笛、鼓を鳴らして唄い舞ったものだが、やがて専門の田楽法師が生まれた。腰鼓、笛、銅鈸子、さらさら等用いる。群舞と、高足に乗り品玉をつか

い刀剣を投げるなどする曲技とを本芸としたが、鎌倉時代から南北朝時代にかけて猿楽と同様に歌舞劇である能をも演ずるようになった。後に衰え、寺社の行事だけに伝えられ、今に至る。

(広辞苑より)

ナンバーワン物語

姓氏 (二)

H生

酒々井町の姓氏は鈴木姓が第一位であり、姓の種類は一、四、三種類の多数であることを前々号に書きましたが、この多彩な姓を見ていると、さまざまのことが連想されて、興のつきないものがあります。

姓氏調査に使用した電話帳は「あいいうえお」の五十音順となっており、整理に大変便利です。これを利用して、いろいろの角度から観察することが出来ます。

まず「あ」のつく姓の種類は、「い」のつく種類ほどのくらいあるだろうかと思ってみました。数の多い順からみますと、

1位は加藤28、金子18をはじめとして一三種があります。一姓だけは加納、柿内、香取以下八一種と多いのには驚きました。

2位は小川24、岡田17を筆頭に一〇六種あります。おのつく一姓は小高、小那木、小浜以下五八姓もあり

3位は伊藤64、石井30など一〇一種があります。一姓のみは井村、伊島、伊丹以下五九姓もあります。

4位は高橋82、田中32をはじめとして九五種類もあって、一姓だけは田浦、田野、高尾など六一種類もあります。

5位はのつく姓も案外多く中村28、内藤27以下七三種類あります。一姓だけの姓は名和、中河、長岡など四五種あります。

6位はしの六九種、7位はこの六一種、8位はの五九種、9位はみの五八種、10位は五五種、11位はま五〇種、12位は四八種、13位は四四種、14位は四一、15位は四〇種とつづきます。少い方のナンバーワンはれです。これは零(ゼロ)です。一音一姓だけはぬの沼尻、の六分の二姓だけです。二姓になるとねの根本、根石、りのカ田、竜崎、への別府、逸見などとあります。

けのめちのつく姓も三〇五姓と少い方です。姓の数が一、四、三種類もあると珍らしい姓や難読の姓もたくさんあります。

◇ 珍らしい姓 ◇  
安楽、阿尾、相茶、葵、熱海、猪越、石亀、石鍋、内賀島

う、江刺、江面、大串、大田尾、面川、面高、面野、金繩、貫洞、兜木、木我、桔梗原、九里野

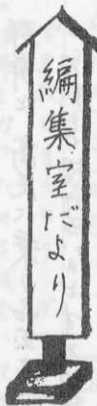
か、煙山、玄道、源間、胡摩、五晃、陣、内、す、鋤柄、瀬楽、勢登、太郎浦、高蝶、種川、中留、長睦、長繩

は、蜂巣、半杭、ニツ森、船渡、真弓、門仁田、御厨、箕箸、目連、守安、森澄、り、カ田、六分

さ、珍らしい名のナンバーワン

んは、どれでしょう。◇ 難読の姓 ◇

饗庭(あいは)、穂田(あきた)、木秦(うずまさ)、小垣外(おがいと)、重昆(かさひ)、晴(かしわて)、許斐(このみ)、越膳(えちせん) いずれも難読でナンバーワンはさめかぬるものばかりです。



会報は前号から、オフセット印刷にしましたところ、文字も鮮明となり好評でありました。今度もつづけることにしました。

九月十八日の吉川記念館外の見学会は参加者八十七名、ガイド付きの観光バス二台を連ねて行いました。御獄山頂の展望は霧に包まれて期行はずれとなり、また車の渋滞で帰町時間は遅れましたが、その他はまずまずでありました。

前号で、金杉さん提唱の平和の花だいを云々する運動は左記の方より種々寄贈され合計約一、七リットルとなり石岡市の本部へ、金壹万円を添えて贈りました。御協力ありがとうございました。田村直子、勘玉子、島田寛夫、金杉智恵、粕米光子、木村とし子、宮本博司、相宗さく、藤崎房枝、松本光枝、鶴岡知子、相宗晴次 (順不同)

印幡沼の橋 (三)

(6) 船戸大橋

佐倉市白井と印幡村師戸を結ぶ、渡船場付近に架けられた橋である。主要県道、千葉、白井印西線となつて交通量が多い。名所、旧跡、釣場の多い白井と県立師戸城跡公園を両翼にもち観光客の通行の多い橋である。長さ九六メートル余、幅六メートル、昭和三十八年三月竣工。

(7) 阿宗橋

八千代市保品と印幡村吉田を結ぶ橋で、当初(昭和十五、十六ごろ)付近に駐屯していた捷(しやう)部隊と範(はん)部隊によつて木橋の軍用橋が架けられて、捷範橋と稱されていたもので、この橋が印幡沼架橋第一号であった。現在の橋は三代目で鉄筋コンクリート造り、印西地区と八千代、千葉方面を結ぶ橋として交通量も多く、一般県道八千代、宗像線が通つていゝ。旧阿蘇村と宗像村の一字づつをとつて阿宗橋と名付けられた。

長さ九一メートル、幅七メートル、昭和四九年十二月竣工

(8) 松保橋

八千代市保品と印西町松崎の間に架けられた橋、水路の両側は広い耕地ばかりで、人家も遠く、一般の通行は稀で、完全な農道橋である。松崎と保品の一字づつをとつて松保橋となる。長さ六六メートル、幅四メートル、昭和二九年三月竣工

(9) 神尾橋

神尾橋は八千代市神野と印西町船尾を結ぶ橋で、主要県道千葉、竜ヶ崎線が通り、交通量が多く、横幅も印幡沼に架けられた橋では最も広い。千葉、茨城県との交通対策として作られた新道に架けられた橋である。橋名は両端の地名を一字づつとつてつけられる。

長さ六四メートル、幅八メートル余、昭和四五年一〇月竣工

新入会員紹介
432 大家正徳
433 石川静江

郷土研日誌

Table with columns: 月日 (Date), 内容 (Content), 出席者数 (Attendees). Rows include activities like '会報第33号発行', '古文書学習会', '石佛調査', etc.

むかし アソビ あそび 遊び (五)

宮本博司

陣とり (城とり大勝利)

下校した何人かが集まり、ほじまる遊びだ。じゃんけんや二組に分れ、陣を指定する。陣には、大きな木或は電柱がよく利用された。開

戦」という合図とともに、陣には一人か二人の番を残し、他の者は敵の目をかすめ、相手の陣に向う。どちらが早く相手の陣をとるか競争遊びである。とつたときには「大勝利」と大声を出す。合戦中、相手の組の者に捕はれた者は、敵陣で、味方の者の助けを求め、助けた者は本陣へ帰り再び戦に加わり活躍するさまが、あつた。 次号へつづく

郷土研行事案内

59年度 4・4 半期

	10月	11月	12月
古文書 学習会	6日(土) 午後1時30分 中央公民館	10日(土) 午後1時30分 中央公民館	休
石佛調査	7日(日) 午後1時 中央公民館集合	休	9日(日) 午前9時 中央公民館集合
野草の会 名勝探訪	14日(日) 午前8時20分 京成酒々井駅集合 皇居東御苑—北の丸公園 靖国神社 (雨天中止)	11日(日) 午前8時20分 京成酒々井駅集合 新宿御苑—明治神宮 (雨天中止)	休
史談会	13日(土) 午後4時20分 国鉄酒々井駅集合 佐原のまつり見学!! 帰予定=佐原発午後8:02・8:44	休	8日(土) 午後1時30分 中央公民館 酒々井の民俗
県内 見学会	11月20日(火) A班 22日(木) B班 27日(火) C班 (各班38名 先着順) 申込受付: 10月11日午前9時より	見学地 大利根博物館—銚子川口神社—犬吠埼 —万願寺—刑部岬—蓮沼五所神社 会費 ¥1,500円 昼食代含む 出発 午前8時30分 公民館前出発	
一泊 見学会	12月11日(火) 12日(水) (定員60名 先着順) 見学地 鶴見総持寺—横浜市称名寺—横須賀臨海公園— 御宿月の砂漠公園—メキシコ公園—ぽっくり権現—伊能忠教生誕地	出発 午前8時 公民館前 会費 ¥13,000円 申込受付 10月11日午前9時より	

会計報告

9月18日

吉川記念館外見学会

収入		
会費	4,500円 × 8人	39,500円
支出		
バス代	11万円 × 2台	220,000円
有料道路		22,000円
ケーブル		
リフト料	820円 × 8人	71,340円
中食代	600円 × 8人	52,200円
吉川記念館 入場料	200円 × 8人	17,400円
運転手 心付け	4人	10,000円
計		392,940円
差引不足	¥1,440円	郷土研より補助

・ 翌日の御宿、月の砂漠公園、メキシコ公園、ぽっくり権現、伊能忠教生誕地は、郷土研究会としては初めのところを迷いました。  
 ・ 臨海公園は横須賀の旧海軍軍需部跡につくられた公園で、旧軍港が一望できる。面積は約九万㎡と広い。  
 ・ 宿泊は変りばえしないが、小湊の万龍にしました。これは、バスで送迎してくれる。横須賀、横須賀方面を見学できること、安柄にできることなどにより決めました。  
 ・ 重要文化財も多くあり、境内地には有名な金沢文庫がある。

一泊見学会

・ 鶴見の総持寺は曹洞宗の総本山。末寺一万三千四百余寺あり。永平寺とともに、わが国屈指の大寺院。  
 ・ 称名寺、鎌倉時代の創建で、多くの歴史が秘められている寺院。重要文化財も多くあり、境内地には有名な金沢文庫がある。

県内見学会

見学会案内



・ 今回は大利根博物館から始まり、銚子の大湊節に唄われている川口神社、犬吠埼、万願寺、刑部岬、蓮沼の五所神社を見学することにいたしました。

昼食は灯台下のみさき亭で磯料理を賞味する予定です。